

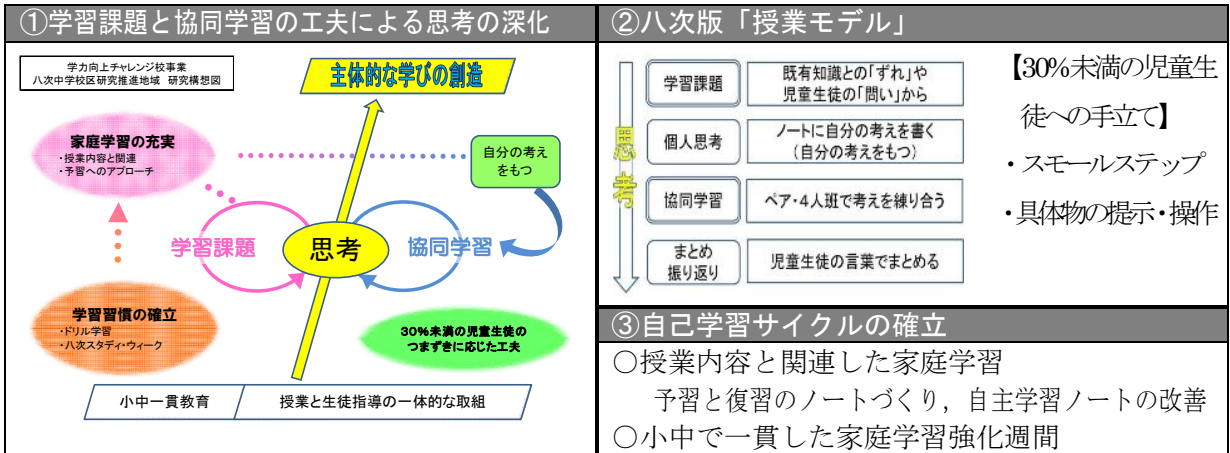
学力向上推進地域 研究通信

平成 29 年 4 月 25 日
 (八次中学校区研究推進地域 第 1 号)
 研究推進教員 八次中学校 豊永政男

昨年度までの 2 年間、「習得」に重点を置いて小中が連携しながら学力向上への研究を推進してきました。今年度は、これまでの取組を生かしながら、さらに発展させて研究を推進していければと思います。4 月 21 日(金)に行われた研修会の内容を以下にまとめておりますので、今後の研究推進につなげていきましょう。

平成 27~28 年度 学力向上チャレンジ校事業 (これまでの取組)

研究テーマ：児童生徒が主体的に取り組む「習得」の学習活動の充実



(成果) 児童生徒の学力の向上, 思考に対する意識の向上

(課題) 習得した学習内容の活用, 課題発見・解決学習の単元づくり

平成 29 年度 学力向上推進地域

★4/21 の研修会の目的…主体的な学びの創造に向けて, 今年度の重点・方向性を検討する。

指導講話

<広島大学大学院教育学研究科 吉田成章 准教授>

(1) 実態について~授業観察を終えて~

- ・生徒は落ち着いて学習している。
- ・教師からは「基礎学力をつけたい」という思いが読み取れる。
- ・小中で PDCA サイクルを回すことのできる素地はある。

(2) 学びの変革に向けて

- ・「授業は教える」ということを取り戻す
- ・教師が「どんな授業をしたいか」, 「どんな子供にしたいか」が重要であり, 議論されるべき
- ・授業時間全てが「主体的」というのは難しい。
→1 時間の中のどこかの場面で「主体的」に
- ・「自分の考え」と「学習課題の答え」を明確に区別する。
⇒ノート指導に位置づける。(メモ欄など)

★今年度の研究の方向性について

1 研究主題について

- 主体的な学びに向けた副題を検討する
- (a) ノート指導を中心に
 - (b) 学習課題と発問
 - (c) 正答主義の授業を超えて

2 吉田先生の研究への関わり方について

- (a) 今年度をゼロ地点として, 3 年計画の小中一貫教育を見通した研究を進める。
- (b) 今年度 1 年の, 単年プロジェクト型として研究を進める。



★上記 1, 2 について, 小中で方向性を協議の上, 今月中に確定する予定です。ご意見等ありましたら積極的に出していただければと思います。